

## ふるさと本別町への思い

東京本別会事務局長代行

横川 義洋

毎年10月の3日間、代々木公園の一角が北海道の色に染まる。林立するテントを眺めると、多くが訪れたことがない町や村で、あらためて北海道の広さを実感する。逆に考えると、我が町の知名度も推して知るべし、本別町がどこにあるのか、多くの人は知らないということになる。

出身地を問われ、有名な歌手を輩出した両隣り町の名を挙げ、ようやくその位置関係を理解してもらおうということも一昨ならずである。そんな特別なものは何もない我がふるさとであるが、私は、それはそれで良いと思っている。

本別町を離れてやがて半世紀、たまさか訪ねるふるさとには、鉄道の駅が道の駅になり、主な建物や家並みも様変わりし、見慣れない橋や道路もできて、随分と新しくなっているが、周辺の景色は昔と少しも変わっていない。

3本の変わらぬ清らかな流れ、日の出を遮る東側の山々の連なり、西側の河岸段丘に延々と続くなだらかな畑地と牧草畑等々、これからもずっとそのままであって欲しいと願うのは単なる私のノスタルジーであろうか。

今年も又、ふるさとの人々が育み収穫した「日本一の豆」を声を枯らして売る3日間、その日だけは、本別町の人間に戻って頑張りたいと思っている。



空からみた本別町



本別町 道の駅

## 新・ご当地グルメ

初代グランプリに輝く

東京別海会会長

新家 鶴男

別会町の新ご当地グルメ「別海ジャンボホタテバーガー」が去る7月10日、11日の2日間、北海道美瑛町で開催された。

「新ご当地グルメグランプリ北海道」（食に依る観光まちづくり推進協議会主催）で、知名度の高いオホーツク北見塩焼きそばや富良野オムカレー等の強敵を押ししのけ、見事初代チャンピオンに輝いた。

北海道内12品目が出品し、12,000人が来場した。審査は人気度、味、コストパフォーマンスの3つの要素、人気度は2日間の売り上げ個数、味とコストパフォーマンスは食べた人が5段階で評価する。別海ジャンボホタテバーガーは、人気度1位、(1429個売り上げ)、味は3位、コストパフォーマンス(価値感)6位、ポイント合計は、両日とも1位で総合58点(2位、53店の美瑛カレー)うどん、3位51点の富良野オムカレー)。バランスの良い安定した評価を受けて完全制覇を飾った。

ホタテバーガーは、野付産の特大ホタテ(2Lサイズ)を丸のまま春巻きに包んで揚げ、モッツアレラチーズ、野菜のマリネ等を四角い自家製パンに挟んだもの。別海町内では5店舗がこのバーガーに500ミリリットルのジョッキ別海牛乳をつけて販売しており、生乳生産日本一の別海町をアピールしている。「全国の皆さん、是非、別海ジャンボホタテバーガーを食べに来て!!」



## ホッカイドウ競馬の

応援をお願いします

新冠町役場 産業課長

堤 秀文

ホッカイドウ競馬の応援をお願いします。

今、ホッカイドウ競馬は大きな岐路に立っており、それは、この事業の平成22年度単年度収支が均衡しなければ廃止となるということです。しかし、競馬が廃止となれば、北海道、とりわけ馬産地日高地方にとつては、競走馬生産が主たる産業になっていることから地域崩壊につながりかねない状況に陥ることが想定されます。ホッカイドウ競馬は世界でも類の少ない生産地に立脚し、生産者自らが馬主となり多くの馬を走らせ、そこで活躍した馬たちは、実績を買われ中央競馬や多くの地方競馬に出走していきます。いわばショーケース的な役割も併せ持っております。そして、何より地域の馬文化の象徴でもあります。8月までの売上実績は、収支均衡を図るには至っていない大変厳しい状況になっております。多くのファンや地元住民、関係者が「丸となり何が何でも、競馬を存続させることで様々な支援活動をおこなっておりますので、ふるさと会の皆様にも何とぞ応援頂きますようお願い申し上げます。

